

やさしさ、あたたかさを **発信!**



南阿蘇社協だより

災害特集号



「熊本地震」から半年の記録。

編集・発行 社会福祉法人 南阿蘇村社会福祉協議会

TEL 0967-67-0294 FAX 0967-67-2317

<http://www.asoyamabiko.hinokuni-net.jp/minamiaso/>

No.61

平成28年.10.31

発行

4月16日～避難所支援

南阿蘇村社会福祉協議会では、発災直後より久木野総合福祉センターで避難者に対する支援や救援物資の対応などにあたった。



24時間体制で避難所の対応

衛星通信による電話設置



10日間の停電の中、投光車が明るく照らしてくれました。

4月20日～久木野総合福祉センター内のふれあいサロンに「南阿蘇村災害ボランティアセンター」を開設

設備、備品、資材などの準備を行い、避難所での運営支援や物資の仕分けなどのボランティア活動にあたった。



民生委員さんへの協力依頼



5月1日～やすらぎ広場に災害ボランティアセンターのプレハブを設置



プレハブ4棟を設置し、センターの引越を行い、本格的に家屋の片付、瓦礫の処理などのボランティア活動を実施。



「熊本地震」南阿蘇村 災害ボランティアセンター立ち上げ



提供／熊本県

平成28年4月16日に発生した熊本地震によって、南阿蘇村でも甚大な被害に見舞われました。

南阿蘇村社会福祉協議会では、発災直後より、久木野総合福祉センターでの避難所運営支援や救援物資の対応にあたりました。また、被害を受けられた方々の支援と一日でも早い復旧・復興を目指し、4月20日「南阿蘇村災害ボランティアセンター」を久木野総合福祉センターふれあいサロンに開設し、ボランティアの受け入れを開始しました。

避難所での運営支援や物資の仕分けなどの活動を行うなかで、5月1日にやすらぎ広場にプレハブ4棟を設置し、災害ボランティアセンターの引越を行い、本格的に災害ボランティアセンターを機能させることができました。

被災された方々のニーズを受け、全国から駆けつけていただいた多くのボランティアの方々や関係機関の支援をいただき、被災世帯のガレキの撤去・運搬、片づけ、

土砂の除去、引越支援などの活動を行ってきました。

7月からは「生活復興支援ボランティアセンター」に改称し、災害ボランティアセンターと生活復興支援として2次避難所でのサロン活動や、生活状況の聞き取り等の訪問活動を行ってきました。

災害ボランティア活動の依頼が少なくなってきた9月からは通常のボランティアセンターとして、活動やニーズに関する相談をお受けし、活動を行っております。

これからは、被災された方々の生活の再建支援に重点を置き、「地域支え合いセンター」での生活支援相談員の訪問活動や「生活困窮者自立支援法」による被災者支援事業などの地域福祉支援に取り組んでいきます。

これまで活動いただきましたボランティアの皆様には、南阿蘇村の復興に多大なるご尽力をいただいたことについて、深く感謝申し上げます。



5月14日～災害ボランティアセンター立野サテライトを旧立野小学校に開設



被害の大きかった立野地区に行くには道路が寸断されているため、迂回路の山道を超えて行くことになる。5月14日に立野サテライトを旧立野小学校に開設し、九州県内よりボランティアを募集した。

活動日を水、土日とし家屋の片付けや土砂撤去などの活動を実施。

活動ニーズ件数	125件
---------	------



5月1日～南阿蘇支援ボランティア竹田ベースキャンプ開設

大分県竹田市社会福祉協議会は、熊本地震で甚大な被害を受けた南阿蘇村を支援するため、5月1日「南阿蘇支援ボランティア竹田ベースキャンプ」を竹田市荻町に開設。全国から訪れたボランティアを南阿蘇村に派遣。



竹田市社協 水野総務課長

平成28年4月14日、4月16日に発生した「熊本・大分地震」では、竹田市は被災したものの、今後、比較的早期復旧することが見込まれました。

一方、隣接する阿蘇地方は、甚大な被災を受け、長期にわたる復興が必要でした。被害の著しい南阿蘇村へは、竹田市荻町から高森町を経由するルートが唯一になっていました。

また、大分県は、他県等との協議により南阿蘇村をカウンターパート(支援の対象)とした経過もあり、竹田市社協は、活動のコンセプト(基本的な考え方)を、「竹田市が南阿蘇支援ボランティアのベースキャンプとなる」とし、竹田市内外の27団体で組織する運営協議会を設置し、南阿蘇村の支援を決定しました。

5月1日から諸団体の協力を得て、後方支援・中継基地として「竹田ベースキャンプ」を開設し、5月1日から92日間(実活動日48日;雨天時を除く)7月31日まで活動を行いました。



●活動の内容

- 平成24年災害の被災経験により、平成26年に立ち上げた竹田市災害ボランティアネットワーク協議会に加え、新たに地元の組織・団体を含めた「竹田市ベースキャンプ運営協議会」を設置。
- 県内外からのボランティアを受け入れる「事前登録制度」、長期活動者向けの「無料宿泊所」を設置。
- インターネットやフェイスブックを活用した情報発信

●竹田ベースキャンプ概要

①中継基地としてのボランティア受付人数	延 1,991人	全国41都道府県参加
②無料宿泊所の利用者数	延 948人	4か所無料宿泊所開設
③ベースキャンプ運営協力者延人数	延 1,922人	運営協議会27団体及び地域協力者

7月1日～生活復興支援ボランティアセンターへ移行



7月1日より「災害ボランティアセンター」から「生活復興支援ボランティアセンター」へ名称及び機能を変更し、災害ボランティアセンターの活動を行うとともに被災者の生活支援活動として各避難所での「生活状況の聞き取り調査」や「サロン活動」などの見守り支援を実施した。

対象施設	9カ所
実施回数	16回
サロン参加者	187名

アドラバスサロンの様子



高森町とのサロン実施



災害ボランティアセンターの配置



南阿蘇村復興支援団体情報共有会議開催

地元が主体となったボランティア支援体制づくりへ

ボランティア団体、住民や地元団体、役場関係課、社会福祉協議会等が連携し、情報共有、課題対応等を図るため、実務者レベルでの会議を定期的で開催しました。

各復興支援団体より、ボランティア活動状況の報告、今後の課題に向けての意見交換を行い情報を共有しました。

●復興支援団体情報共有会議

	開催日	参加団体	参加者数
準備会	6月17日	19団体	30名
第1回	6月30日	21団体	40名
第2回	8月 5日	14団体	28名
第3回	9月16日	11団体	21名
合計			119名



3 マッチング

被災者からの「ニーズ票」に基づいてボランティアの調整を行う。



4 グループング

グループごとにリーダーを決定。スタッフがニーズ票と活動現場の地図を渡し、被災者宅の状況などの説明を行う。



5 資材

「ニーズ票」に基づき、現場での必要な道具などの資材の貸出しを行う。



6 送り出し(輸送)

ボランティアセンターの軽トラで現場へ移動。ホンダグループより、軽トラックを10台無償レンタル。



災害ボランティア活動



スタッフミーティングの様子

1 ボランティア受付

各地から集まったボランティアを受付。ボランティア受付票、名前シールに氏名等を記入。名前シールは肩に貼りボランティアであることを証する。



2 オリエンテーション

活動における注意事項やボランティアの心得について説明。安全に活動することや、被災者のプライバシーを守ること、無理をしないことなど活動上の注意事項の説明を行う。



たくさんの方々から応援やメッセージを頂き、ありがとうございました!



熊本ホテルキャスルの皆さん



東日本の皆さんより励ましのメッセージ



運営スタッフの皆さん



安倍総理の避難所訪問



宮城県登米市立浅水小学校より折鶴

南阿蘇村災害ボランティアセンター 活動報告

●南阿蘇村ボランティアセンター
(平成28年10月20日現在)

延べ活動件数	675件
延べ活動者数	8,400人
活動実施日数	127日
スタッフ延べ人数	2,270人

●南阿蘇復興支援団体活動実績
(平成28年9月16日現在)

復興支援団体	25団体
延べ活動件数	1,594件
延べ活動者数	13,719人

(災害ボランティアセンター把握分)

●ボランティア総数

災害ボランティア延べ活動者数	8,400人
復興支援団体延べ活動者数	13,719人
消防職員延べ活動者(ブルーシート張り)	256人
合計	22,375人

南阿蘇村災害ボランティアセンター
活動資金に共同募金災害準備金

熊本県共同募金会から南阿蘇村災害ボランティアセンターの立上げや運営費として災害準備金24,500,000円が配分されました。



生活福祉資金(緊急小口資金)
の特例貸付

南阿蘇村社協では、平成28年5月6日から6月17日まで、被災された方で県内に住所を有し、当座の生活費を必要とする世帯を対象に生活福祉資金(緊急小口)の特例貸付を実施した。

本貸付業務にあたっては、熊本県社協・大分県社協・茨城県社協・つくば市社協から延べ29人の応援を受けました。

貸付件数	68件
貸付金額	880万円

多くのボランティアが復興を支えた

家屋の片付け、瓦礫の片付け、運搬、土砂の撤去作業。

7 活動現場



沢山の出逢いがボランティア活動の原動力

藤田洋司さん 大分県豊後大野市



5月上旬の頃は地震で使えなくなった物の片付け、撤去が主な依頼でした。梅雨時期では、雨が降り思うように活動が出来ずに悔しい思いをしました。梅雨が明けて活動できるようになった頃には、共に活動してきた仲間が集まっていた。みんな想いは変わらず一緒なんだと感じました。8月になってボランティアの人数が減ってしまい、依頼主さんや社会福祉協議会の人達には負担をかけてしまったのではないかと感じます。9月に入り、ニーズ件数が少なくなっていると聞いて、『良かった』と言う気持ちと反面、『ボランティアで出来る範囲が少ないのか』と言う気持ちがありました。

依頼主さんの中には立場上、自分の家のことより先に住民のみなさんの事を優先して、最後に自分達の家の依頼を出された方がいて、とても胸が痛くなり込み上げるものがありました。その依頼主さんの依頼を受けて片付けをしていて、『ルール』という壁にぶつかってしまい、自分達の感情ままに動くことが出来ず、感情を押し殺し、やむを得ず撤退する事がありました。とても悔しかったです。

自分は週2日しかボランティアに来れないので、毎日活動されてるボランティアの人や社会福祉協議会の人達には頭が下がります。

ボランティア活動を通じて沢山の出逢いがありました、依頼主さんであったり、共に活動する仲間だったり、その人を想う気持ち、優しさが強さになりボランティア活動の原動力となりました。

ボランティアさんの姿に感動

積 糾志さん

熊本県阿蘇郡
南阿蘇村吉田



4月16日に熊本地震が発生してその日から避難所でボランティアをしていました。4月の終わり頃にはほぼ避難所のボランティアはなくなったためガレキ撤去や支援物資の配給の手伝いなど災害支援ボランティアを始めました。

最初は地元ということから道案内をしながら災害支援をしていました。月日を重ねる毎に知識を得ることもでき、リーダーなどになることも多くなりました。

学校の関係で地元にはいない高校生ばかりだったので他の高校生は来ませんでしたが、休日返上でボランティアに参加しました。

地元が復興していく姿とボランティアさんが必死に地元を助けようとしてくれる姿に感動しました。

私の大好きな南阿蘇の地に、再び元気が戻る日を信じて

廣藤 智之さん

福岡県田川郡添田町



様々なボランティア活動に参加させて頂く中で、きっとたくさんの思い出の詰まった学習机や子ども服、年代物の筆筒などの処分をお手伝いすることがあります。その際、依頼者の方へどのような言葉をお掛けすればと悩み、それでも「ありがとうございます」「少し気持ちの整理ができました」と言って頂ける言葉をしっかりと受け止めながらも、その言葉の裏にある思いに少しでも応えていきたいとボランティアを続けてきました。

ボラセンのスタッフさんをはじめ、私たちボランティアを受け入れてくださる南阿蘇村の皆さんの優しさと強さに勇気付けられ、私自身も成長していることに感謝しています。美しい阿蘇外輪山に縁取られた、私の大好きな南阿蘇の地に、再び元気が戻る日を信じています。

災害ボランティアセンターへ長期支援

NPO法人 グッドネーバースジャパン

NPO法人グッドネーバースジャパンとして、災害ボランティアセンターの運営に携わり4月23日から約半年間こちらでお世話になりました。

村内の方々と直接お会いしたり、電話でお話しする機会がある中で、数多くの震災当時の出来事やお話を伺い、胸が熱くなること、辛くなること、涙が出ること、たくさんの気持ち・想いがありました。

復興・復旧にはまだまだ時間がかかりますが、今後とも別の形で支援ができればと考えております。

また、地元社協職員をはじめ、全国からの行政職員、他県の社協職員のサポートのもと円滑に業務ができたことを大変感謝しております。

一日でも早くもとの南阿蘇に戻る日を心待ちにしております。

運営スタッフとして 長期支援



片岡 茜さん

諫山 由紀子さん

南阿蘇で活動されたボランティアさんたちの声

南阿蘇村の復興を 隣県大分より応援

磯野 幸博さん

大分県大分市



初めての災害ボランティアは南阿蘇村から始まりました。避難所支援、ガレキや土砂の撤去、室内の清掃など様々な作業をさせてもらいました。依頼者さんからの「ありがとう」の言葉が身に浸みて嬉しかったです。

様々な経験をさせてもらい、私自身を成長させてもらいました。日本全国、海外からも駆けつけて来た尊敬出来る素晴らしいボランティアの方々との出会いもありました。いつも自分たちの活動をしっかりと支えてくれる、社協スタッフの方々にはとても感謝しています。ありがとうございます。

南阿蘇村の復興を隣県大分より応援しています！

自然災害への怖さを 改めて痛感

松本 寿成さん

大分県大分市



南阿蘇でのボランティア活動に、5月から休日を利用して参加致しました。状況はテレビで見てもはいましたが、目の当たりにすると自然災害への怖さを改めて痛感致しました。

6月には豪雨による土砂崩れ等もあり、二重の災害となってしまいましたが、他の民間ボランティア、運営スタッフの絶え間ないサポート、そして何より、南阿蘇の方々の復興に向けた力強い心で、元の街並みに確実に戻っていると感じています。

ボランティア活動で自分自身も何か成長したのではないかと思います。

活動を通して出会えた全ての人に感謝致します。

平成27年度 法人会計決算報告

事業活動計算書

事業活動計算書は、企業会計における損益計算書と利益処分計算書の2つの機能を有する計算書です。

サービス活動増減の部

収益科目	合計
会費収益	2,813,750
寄附金収益	2,856,673
経常経費補助金収益	43,562,652
受託金収益	10,552,500
事業収益	1,054,400
介護保険事業収益	85,008,043
障害福祉サービス等事業収益	585,240
その他の収益	3,161,950
サービス活動収益計(1)	149,595,208

費用科目	合計
人件費	123,543,787
事業費	22,721,467
事務費	8,282,111
分担金費用	416,800
助成金費用	2,330,000
減価償却費	4,822,791
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 54,000
サービス活動費用計(2)	162,062,956

サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△ 12,467,748
-----------------------	--------------

サービス活動外増減の部

(単位:円)

収益科目	合計
受取利息配当金収益	8,873
その他のサービス活動外収益	994,100
サービス活動外収益計(4)	1,002,973

費用科目	合計
サービス活動外費用計(5)	0

サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	1,002,973
------------------------	-----------

経常増減差額(7)=(3)+(6)	△ 11,464,775
-------------------	--------------

特別増減の部

特別収益計(8)	0
特別費用計(9)	0
特別増減差額(10)=(8)-(9)	0

当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△ 11,464,775
-----------------------	--------------

繰越活動増減差額の部

前期繰越活動増減差額(12)	100,189,128
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	88,724,353
次期繰越活動増減差額	88,724,353

貸借対照表(平成28年3月31日現在)

貸借対照表は、会計年度末におけるすべての資産、負債および純資産の状態を表示した計算書類です。(単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	103,030,146	流動負債	16,643,069
現金預金	76,606,332	事業未払金	15,176,091
事業未収金	26,127,374	職員預り金	1,466,978
前払費用	296,440	固定負債	79,766,469
固定資産	126,405,374	退職給付引当金	79,766,469
基本財産	3,000,000	負債の部合計	96,409,538
その他の固定資産	123,405,374	純資産の部	
車輜運搬具	795,105	基本金	3,000,000
器具及び備品	2,026,031	基金	161,850
退職手当積立基金預け金	67,703,550	国庫補助金等特別積立金	342,000
退職給付引当資産	12,062,919	その他の積立金	40,797,779
運営財産積立資産	40,797,779	次期繰越活動増減差額	88,724,353
差入保証金	19,990	(うち当期活動増減差額)	△ 11,464,775
資産の部合計	229,435,520	純資産の部合計	133,025,982
		負債及び純資産の部合計	229,435,520

脚注 減価償却の累計額 44,660,183円

収支決算関係書類を閲覧希望の方は、南阿蘇村社会福祉協議会事務局までお申し出下さい。

熊本地震による被災された皆様への生活支援として

「南阿蘇村地域支え合いセンター」を設置

南阿蘇村社会福祉協議会では、南阿蘇村から委託を受け、熊本地震で被災された方々が、安心した日常生活を取り戻し、生活再建出来るよう、見守りや健康・生活支援、地域交流などの総合的な支援を行う「地域支え合いセンター」が設置されました。



センターでは、「生活支援相談員」等を配置して、仮設住宅やみなし仮設住宅、在宅等を巡回訪問し、困りごとや各種相談ごとへの対応、交流の場づくりのお手伝いを行います。

南阿蘇村地域支え合いセンターの開所式の様子



こんなことに困っていませんか?

- ★最近、体調がすぐれない
- ★気軽に世間話ができる相手がほしい
- ★福祉サービスを利用したいが手続きが分からない
- ★なかなか仕事が決まらない
- ★子どものことで悩んでる
- ★その他(何でも気になること)



みなし仮設住宅、在宅のみなさんへ

皆様の生活の様子や健康状態などをお聞かせ下さい。見守り活動の日程の調整が出来ましたらご報告させていただきます。



被災された皆様のお役に立てるように訪問しておりますので、困りごとなどありましたら、遠慮なく相談して頂きますようお願い致します。

生活支援相談員一同

●お問い合わせ
心配なことや、気になることなど、お気軽にご相談ください。

南阿蘇村地域支え合いセンター
0967-67-3607 0967-67-3608



児童・生徒の

ワークキャンプ事業



この広報紙は共同募金配分金で作成しています。



小・中学生が福祉施設で利用者の介護などを体験するワークキャンプ事業が夏休みを利用して行われ、村内の小・中学校6校から116名が参加しました。

地域のお年寄りの方々のお話し相手や身の回りのお世話等の体験学習を通して、やさしさや相手を思いやる心を学ぶことができました。

参加された生徒さんに、「やさしさ証明」を授与しました。

レクリエーションで利用者さんとふれあい



お食事の配膳



おがとく。



色々なことをお手伝い



楽しくお話し

ワークキャンプ体験学習を行った施設

- 特別養護老人ホーム「水生苑」
- 特別養護老人ホーム「陽ノ丘荘」
- リハセンター「ひばり」
- 南阿蘇ケアサービス
- 南阿蘇村社会福祉協議会

お世話になりました。